

	職歴
1992年12月	国立小児病院 アレルギー科秘書
1993年1月	国立小児病院アレルギー科内 のぞみの会 事務局
2000年4月	国立小児病院研究所 アレルギー研究部 共同研究員 生命倫理担当 (現：独立行政法人国立成育医療研究センター)
2002年12月 (2004年10月)	アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」 幹事 NPO 法人アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」 専務理事
2004年10月	ドナルドマクドナルド財団 助成委員
2007年4月	日本患者会情報センター 代表
2011年4月	独立行政法人国立成育医療研究センター 副所長室共同研究員
2012年10月	東北大学東北メディカル・メガバンク機構 講師
	委員会等
2004年10月	文科省：アレルギー疾患に関する調査研究委員会 委員
2004年10月	厚労省：アレルギー疾患対策検討会 委員
2004年10月	文科省：第12回ユネスコ国際会議生命倫理委員会 推進委員
2004年10月	文科省：個人の遺伝情報に応じた医療の実現化プロジェクト ELSI 委員会 委員
2006年4月	厚労省：喘息死ゼロ委員会 委員
2006年8月	厚労省：中医協/手術にかかわる施設基準等調査分科会 委員
2007年4月	厚労省：厚生科学審議会 専門委員
2008年2月	東京都：アレルギー性疾患対策検討委員会 委員
2009年2月	厚労省：薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会 委員
2009年2月	厚労省：薬事・食品衛生審議会新開発食品調査部会 委員
2009年9月	厚労省：厚生科学審議会 専門委員
2009年4月	千葉県：教育委員会健康増進検討会 委員
2010年2月	内閣府：消費者委員会新食品調査部会 委員
2010年2月	内閣府：消費者委員会食品表示委員会 委員
2010年8月	厚労省：リウマチ・アレルギー対策検討委員会 委員
2010年12月	厚労省：アレルギー疾患対策作業班 委員
2011年2月	厚労・文科・経産：ヒトゲノム・遺伝子改正研究倫理指針に関する専門委員会委員
2011年6月	厚労省：患者サポート事業実施法人選定審査委員会 委員
2012年4月	千葉県：千葉県教育委員会食物アレルギー対応協議会 委員
2012年6月	独立行政法人国立成育医療研究センター：臓器移植倫理委員会 委員
2012年8月	東京都：アレルギー疾患対策検討委員会 委員
2013年1月	厚労省：薬事・食品衛生審議会 臨時委員
2013年1月	厚労省：薬事・食品衛生審議会 食品衛生分科会 委員

2013年 1月	厚労省：薬事・食品衛生審議会新開発食品調査部会 委員
2013年 9月	厚労省：社会保障審議会統計分科会疾病・傷害及び死因分類部会 委員
2013年10月	内閣府：消費者委員会 臨時委員
2013年12月	内閣府：消費者委員会食品表示部会加工食品の表示に関する調査会 委員
2013年12月	内閣府：消費者委員会食品法事部会生鮮食品・業務用食品の表示に関する調査会委員
2013年12月	内閣府：消費者委員会食品表示部会栄養表示に関する調査会 オブザーバー
2014年 4月	内閣府：消費者委員会外食等におけるアレルギー情報の提供の在り方検討会委員
2014年 4月	厚労省：厚生科学審議会 専門委員
	所属学会等
1999年 2月	日本子ども健康科学会 理事
2000年 4月	一般社団法人日本アレルギー学会
2000年 4月	日本小児アレルギー学会
2000年 4月	日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会
2012年 9月	日本組織適合性学会 倫理問題検討委員会 委員
	業績目録
1998	医師とコメディカルのディスカッション (8) アレルギー児の親の会のサポート アレルギーの領域 5 (8), 1082-1084,1998-08 飯倉洋治,栗山真理子
2004	患者を支えるネットワーク -アレルギー性疾患の患者会から(特集 知っておきたい「アレルギー」) 助産雑誌 58 (2), 130-136.2004-02
2004	患者団体の立場からの医学情報(サービス) あいみつく (0386-4502) 25巻1号 Page4-8 (2004.04)
2004	アラジーポットのこれまでの活動と反響(一般) チャイルドヘルス (1344-3157) 7巻7号 Page543-546 (2004.07)
2004	ニュース・ウォッチング ナーシング・トゥデイ, 19 (10) -11,2004
2004	患者の求める医療情報と患者の発信する医療情報号(会議録) 医療情報学連合大会論文集 (1347-8508) 24回 Page244-245 (2004.11)
2004	【患者図書サービス】患者の求める医療情報と患者の発信する医療情報(解説/ 特集) 医学図書館 (0445-2429) 51巻4号 Page353-354 (2004.12)
2005	5患者団体からの発言b)小児患者を中心として、アラジーポットの取り組み(公開 シンポジウム2) アレルギー疾患の自己管理向上のために患者と医療関係者から の提言) アレルギー54 (3・4), 317,2005-04-30
2005	医療者と患者と一緒に話し合う場を広げていきたい 看護, 57 (11) : 61, 2005.
2005	患者の視点に立った喘息診療ガイドライン(小児編)を作成して(解説)看護部 長通信 3巻1号 Page104-109 (2005.04)
2005	アレルギー情報の適正普及促進のために 氾濫するアレルギー情報 患者の立

	場から (会議録) 日本難治喘息・アレルギー疾患学会誌 (1348-1215) 3 巻 2 号 Page120 (2005.04)
2006	司会のことば (シンポジウム 8 患者 (受療者) の目線からみたアレルギー治療, 第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会) アレルギー55 (3・4), 346, 2006-04-30
2006	みんなのための喘息ガイドライン 2006 患者の立場からガイドラインの普及利用のために (会議録) 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 (1348-1215) 4 巻 2 号 Page104 (2006.05)
2006	アトピー患者さんとともに アレルギー関係の学会/患者会のホームページ一覧とその使い方 小児ぜんそくにおける患者団体アラジーポットの取り組み ガイドラインに基づいた医療情報を共有」医療者と患者のコミュニケーション (解説) Topics in Atopy(1347-7242)5 巻 2 号 Page48-50 (2006.06)
2006	食物アレルギーの子どもの対応レシピ (特集 1 どうしますか? 食物アレルギー対策) 食生活 100 (6), 26-29, 2006-06
2006	アレルギー疾患からみた事業の問題点と期待、そして患者会のできること (特集 「小児慢性特定疾患治療研究事業の制度改革について」の企画 小児科診療 69 (8), 1197-1202, 2006-08
2006	アトピー性皮膚炎の患者さんに「アラジーポット」ができることしてきたこと (特集/小児アトピー性皮膚炎診療のコツ) -- (トピックス) 小児科診療 69 (8), 1197-1202, 2006-08
2006	シンポジウム 食の安心・食の安全 (特集 食文化の地平) ソフィア 55 (1), 4-40, 2006
2006	食物アレルギーのお子さんやお母さんにしてあげられること (Q&A) チャイルドヘルス (1344-3151) 9 巻 10 号 Page739 (2006.10)
2006	[2]患者・市民の代表選出 (第 2 編 2006 年度日本の医療 20 の「論点」第 1 章制度決定への市民参加/制度決定プロセスの公平さ 医療白書 2006 年度版 日本の医療の「未来像」—国民が真に求める医療を徹底追及— : 161-165 2006
2006	(5) 食物アレルギーと集団生活～保育園, 学校, かかりつけ医との連携・情報共有・トラブル解決～ チャイルドヘルス, 9 (10) : 737-739, 2006
2007	アレルギー疾患ガイドラインに望むこと (解説) 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 (1348-1215) 5 巻 3 号 Page169-172 (2007.09)
2007	患者の声を、いかに医療の場に反映させるか 事例:患者が参加して診療ガイドラインを作成 医療を動かす 2007.12 048-062
2007	市民主体の医療 患者の声を医療政策に反映するための仕組みづくり 第 4 章医療の実態に迫る講義に注目 実録:HSP 共通講義「医療政策」・「市民主体の医療」医療を動かす 2007.12 094-101
2008	頼れる学校を求めて「学校生活管理指導票 (アレルギー疾患用)」による、学校・医療・親の新しい関係 (会議録) 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌

	(1348-1215) 6 卷 2 号 Page164 (2008.05)
2008	特定非営利活動法人アレルギー児をさえる全国ネット「アラジーポット」第 1 回 イザイ, (7) : 94, 2008
2008	学校でのアレルギーの理解のために「学校生活管理指導票」【アレルギー疾患用】 第 2 回 イザイ, (8) : 82, 2008
2008	一般開業医・患者の視点に立った日本顎関節学会初期治療ガイドライン 医療消 費者（患者）が診療ガイドラインに参加することとは（会議録）日本歯科医師会 雑誌（0047-1763）61 巻 5 号 Page451（2008.08）学会誌
2008	社会資源としての患者会 患者自らが発信する 第 3 回イザイ, (9) : 86, 2008
2008	小児気管支喘息の治療と家庭での管理の問題点-家族会「アラジーポット」と家 族（特に母親）の立場から（特集 小児気管支喘息のいま-喘息とうまく付き合 うための援助）小児看護 31（10）, 1418-1422, 2008-09
2008	学校・医療機関・家庭とのアレルギー生活指導表を通じて新しい連携のかたち について 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌(1348-1215)6 巻 3 号 Page306(2008.09)
2008	患者・消費者の適切な医療参加に向けた感染症に関する電話相談のテキストマイ ニング 日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)67 回 Page230(2008.10)
2008	患者の会と語る アトピー性皮膚炎のよりよいフォローのために（座談会）皮膚 アレルギーの旅（1346-9681）7 巻 4 号 Page1-6（2008.12）
2009	喘息・アレルギー疾患患者・家族との Communication & Education 喘息患児の 保護者間のコミュニケーションについて（Q&A）Allergia Trends(1345-1707)11 巻 1 号 Page22-23（2009.02）
2009	MS13-3「家族と専門医が一緒に作った小児ぜんそくハンドブック 2008」を中心 にしたチーム医療での患者会の役割（MS13 アレルギー診療におけるチーム医 療, ミニシンポジウム 13, 第 21 回日本アレルギー学会春季臨床大会）アレルギー -58（3・4）, 383, 2009-04-30
2009	医療政策に患者の声を反映させる仕組みづくり 市民主体の医療 「医療政策」 入門・医療を動かすための 13 講 Page139-143（2009.04.15）
2009	初めて刊行された『患者さんとその家族のためのぜんそくハンドブック 2008』ア ラジーポットのハンドブック普及の取り組み 日本小児難治喘息・アレルギー疾 患学会誌(1348-1215)7 巻 2 号 Page126(2009.05)
2009	アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」 安心して学校生活を送れ る環境作りを目指して（解説）家族看護 7 巻 2 号 Page127-130（2009.08）
2009	W13-7 患者支援 NPO 法人の立場から（コメディカルの役割を検証, 今後の展 開, 第 59 回日本アレルギー学会秋季学術大会）アレルギー-58（8・9）, 1163, 2009-09-30
2009	「家族と専門医が一緒に作った小児ぜんそくハンドブック 2008」の発刊が意味

	するもの イザイ, (10) : 68-69, 2009.
2009	新型インフルエンザ発生前後における電話医療相談のテキストマイニング (会議録) 日本公衆衛生学会総合抄録集 (1347-8080) 68 回 Page157 (2009.10) 杉森裕樹 (大東文化大学)
2009	慢性的な病気や障害を持つ子どもを地域で育てる ガイドラインを基に 医療・教育・家庭が一緒に(会議録)外来小児科(1345-8043)12巻4号 Page462-463 (2009.12)
2010	患者・家族会と私(新連載・1)しゃべり、学び、発信する--アレルギー児を支える全国ネット「アラジーポット」 ナースアイ 23(2), 101-104, 2010
2010	専2-2 患者,市民からみたオーダー医療(アレルギー疾患のオーダーメイド治療, シンポジウム, 専門医コース 2, 第 22 回日本アレルギー学会春季臨床大会) アレルギー 59(3・4), 295, 2010-04-10
2010	チーム医療で対応するアレルギー疾患 コミュニケーションツールとしてのガイドライン 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌(1348-1215)8 巻 2 号 Page46(2010.05)
2010	.患者が望むアレルギー診療(VII.患者の視点で考えるアレルギーの診療, 専門医のためのアレルギー学講座) アレルギー 59(6), 659-666, 2010-06-30
2010	インターネットにおけるヘルスコミュニケーションの現状と今後 インターネットによる市民活動 実践報告と今後の可能性 日本ヘルスコミュニケーション研究会プログラム・抄録集 2 回 Page24(2010.09)
2011	医薬品の安全性情報とリスクコミュニケーション ガイドラインに基づいた患者視点コンコーダンスの取り組み 小児喘息 日本薬学会年会要旨集 (0918-9823)131 年会 1 号 Page232(2011.03)
2011	アレルギー児をめぐる学校との協力関係 コミュニケーションツールとしての「学校でのアレルギー疾患に対する取組ガイドライン」日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)25 巻 3 号 Page434(2011.08)
2011	チーム医療で対応するアレルギー疾患 コミュニケーションツールとしてのガイドライン 日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)25 巻 3 号 Page434(2011.08)
2012	食物アレルギー 特集: 食品安全の明日を考える消費者情報 No.429 Page12-13 (2012/3)
2012	地域で見守るアレルギー疾患 市民から見たチーム医療 アレルギー (0021-4884)61 巻 3-4 Page417(2012.04)
2013	専門医のためのアレルギー学講座 XII アレルギー診療とチーム医療 提言: アレルギー疾患患者・患者会からチーム医療に寄せて アレルギー62 巻(1) Page12-19, 2013.01 (平成 25)
2013	社会的コンセンサスを意識した考え方について 「平成 16 年度～平成 24 年度 個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト (オーダーメイド医療実現化プロ

	ジェクト) ELSI 委員会活動報告書」 page27~34(2013.03)
2013	研究者・法律家などと患者・市民が一緒に考える 日本生命倫理学会ニューズレター 2013.06
2013	患者団体の活動と患者からの情報 「みてわかる薬学 図解医薬品情報学 (改訂3版)」 Page308-315 (2013.10) 南山堂